

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770301162		
法人名	株式会社 エフ・エム・シー介護サービス		
事業所名	FMCグループホーム		
所在地	大阪府寝屋川市本町16番5号		
自己評価作成日	平成25年4月20日	評価結果市町村受理日	平成25年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成25年5月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「認知症高齢者のすべてに尊敬の意を持ち、受け入れること」が介護支援の根本だと考えており、介護スタッフに置いては「生き生きと元気に楽しい共同生活」及び「さりげなく優しく、見守る」といった、認知症高齢者主体の介護を行うべく日々努力を重ねております。事業にあたっては、「心穏やかに笑顔で、時には思いを打ち明け一緒に涙できる環境づくり」を目指し、地域住民との関係性の向上、並びに地域内連携を綿密に図りながら行政との連携に努めております。散歩しながら地域の方に「こんにちは」と声をかけていただき、「また明日」と手を振り挨拶ができる。そんな地域に根差したグループホームが私たちのホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体は、FMC(フューチャー・メディカル・ケア)の名前を冠して、寝屋川・門真市内でグループホームを運営する、(株)エフ・エム・シー介護サービスである。ホームは、平成15年4月に、5階建ての、3、4、5階部分に、3ユニットで開設された。1階に整骨院、2階にスポーツジムを併設している。ホームでは、看護師を配置し、協力医療機関や併設の整骨院、スポーツジムとの協力・連携の充実したバックアップ体制の下に、日常的に利用者の健康・予防・リハビリ・相談等を行い、定期的な健康チェックも実施して、健康管理が確保された、安心・安寧な生活が在る。全職員で創りあげた、事業所独自の、「FMCの心得・理念」の10項目が在り、「笑顔溢れる介護」を基本コンセプトに、高齢者が「いきいきと元気に楽しく心穏やかに暮らす」を目指して、全職員が一体となつての真摯な実践の姿が見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型介護施設として、ホームの運営方針を管理者をはじめ、介護職員に周知徹底を図り実践しています。	全職員で創りあげた、事業所独自の「心得・理念」10項目を施設内に掲げ、会議等でも読み合わせを行ない、理念の共有の徹底を図り、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事であるお餅つき大会やお祭りに参加させていただき、また、施設内で行う催し等に来ていただけるよう掲示板を利用してお知らせしています。	地域で開催される各種行事への参加、ボランティアの受け入れによる、日本舞踊、大正琴、書道等や「介護何でも相談所」による地域との密な交流を実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「介護何でも相談所」の活用を運営推進会議の場や地域包括センターと話し合いをしながら、防災訓練を連携して行い、認知症の方の避難時の対応などで我々の持っているノウハウを伝授する場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域とホームの行事にお互いに参加しあい、その中で気づきを会議で発言していただき、カンファレンスを開いて全ての職員に周知するようにしています。	平成24年度は、年4回開催し、延べ53名の参加があった。参加者は、利用者、家族、自治会の会長、老人・婦人各会長、地域包括支援センター職員、傾聴士、館長、看護師、職員等の参加で、双方向的な会議をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターと連携し防災に関する取り組み方や、職員のモチベーションを保つための活動に関して話し合いを行っています。	日頃から、市が開催する各種会議に参加し、市の担当者と相談・情報交換をしている。市の高齢介護室や地域包括センター等の指導を受けながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束を行わないホームではあるが、複合ビルの為エレベーターを使用すると他施設へと繋がっているため、エレベーターの施錠を行っています。	管理者及び職員は、身体拘束をすることの弊害は理解している。各階エレベーターは施錠をしているが、利用者の戸外への出入りには即応体制をとり、見守りを重視し、開放感が得られるような取り組みがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、研修への参加や施設内での勉強会を開催し、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に成年後見人制度を活用されていた入居者がいらしたかったので制度についての知識は持っておりますが、その制度を我々サイドで積極的に活用する用意はしていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居手続き時に説明を行い、家族様に対して疑問点を尋ね、理解・納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロアに意見箱を設置しています。また、面会時には家族様に直接お声掛けし、会話の中から思いを汲み取れるよう努めています。	苦情相談窓口を設置し、管理者を担当者として、利用者・家族の意見・苦情・不安への対応をしている。家族の訪問時にも、意見・提案等を傾聴し、「こんにちは」便りの発行もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロア会議・カンファレンスに出席し、職員の意見や提案を聞き、リーダー会議の議題に挙げて話し合いを行っています。また、個別で声掛けを行い傾聴しています。	毎月フロア会議を開催して、職員の様々な意見・提案を聞く機会を設けている。職員の意見・提案は、毎月開催の、リーダー・館長会議でも検討をして、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人が得意としている分野や趣味を生かし、新聞づくりや消防担当、レク、お菓子作り等、才能を発揮できる場を提供、相談に努めています。また、手当ての支給が妥当と判断できる事案に関しては、給与の見直し・手当の支給をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修への参加を呼びかけ、希望者・適任者には、会社の経費で研修を受けてもらえる環境を整えています。また、一緒に現場に入り個々への指導を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との相互訪問等の取り組みに対して模索中、現時点での実施はできていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族やご本人、関係者(ケアマネジャー・介護関係者等)にヒアリングをして、関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症高齢者を抱えるご家族の方のお話には、ゆっくり時間を取り、傾聴に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要とされる支援の見極めは、我々介護を行う者としての鉄則であり、「介護何でも相談所」としての役割でも考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を生かし、役割ややりがいと感じ自らが率先して手を出していける環境づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の思いに寄り添い、今後のケア方針を共に考えていけるよう、現状報告や往診時の立会等にも声掛けを行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が住んでおられた地域でないことが多く、馴染みの方が面会に来られる機会が少ないのが現状です。	アセスメントシートにより、利用者の生活歴や家族からの情報を収集して、利用者の従来からの日常生活の継続性を確保した支援をしている。馴染みの理髪店、喫茶店、図書館等への支援を実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファ・テレビなども配置を考え、集まりやすい環境づくりを心掛けています。また、自ら他者にアプローチができない方には、職員が仲介に入るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現時点でそのような状況になっておりませんので、実施していません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの方々の意向に添うよう努力しています。	アセスメントシート、管理日誌、申し送り書、日々の関わり等から、利用者の生活歴や暮らし方の希望・意向を把握し、把握しづらい面については、家族との意思疎通を図り、利用者の自己決定を促がず支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やケアマネージャー・介護関係者の方々に情報をいただいたり、ご本人様との会話の中から拾い上げられるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人をしっかり観察しながら、職員間での情報交換に努め、情報の共有をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアの職員同士で個人個人のカンファレンスを開き、問題点が上がってきたものを、ケアマネ・看護師・Dr・介護福祉士がそれぞれの立場から意見交換を行い、現状に即して介護計画の作成に努めています。	アセスメントシート、診断書、申し送り書(各種ケア事項記録)、管理日誌、介護経過記録、本人、家族、担当職員等から、各種個人情報収集し、介護計画書が作成される。見直しは、毎月モニタリング表で実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かい気づきも記録に書き留めるよう指導をしています。記録から介護計画に反映されるものであると意識付けできるよう説明しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設されているジムや整骨院・歯科往診に加え、ボランティアの方にも依頼をして、その時に応じたレクリエーションや傾聴、お茶会などを行っていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々に依頼したり、地域の行事(餅つき大会・お祭り・桜見等)の参加させていただき、外部の方との交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの主治医が日常の健康管理を行っています。また、個人個人のかかりつけ医の受診を要する場合は、送迎を行い受診していただいております。	あくまでも、本人及び家族の希望を尊重して、これまでのかかりつけ医が継続される。事業所の協力医療機関での受診をする場合には、本人及び家族の納得と同意を得て受診が行われる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師が各フロアを回り、入居者様の健康管理に努め、介護職は夜間帯でも看護師に相談・指示を仰ぐ体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院や近隣の病院へは、パンフレットや空き状況などを情報交換できる体制を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの契約は交わしておりますが、実際に主治医が終末期であると判断を下した場合は、再度ご家族様に現状を報告し、主治医・看護師を交えホームでできる治療などを説明したうえで、ご家族様の意思確認を行っています。また、普段から状態の変化はお伝えしております。	「看取りの指針」があり、早い段階から、その時々事業所の力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極め、必要に応じて関係者の連携・協力体制を取っている。看護師を配置して、医療連携体制にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主な職員には、対応ができる教育を行っていますが、経験の少ない職員や入社間もない職員に対しては指導が遅れています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施しています。また、地域の防災訓練や防災会議に参加させていただき、施設として協力できることは何かと話し合いをしています。	年2回の消防署立会いの避難・救出訓練は実施している。非常災害時のマニュアル、対応手順もある。地域の防災連携体制も進めている。ただ、「非常災害時対策」の地域との文章での明文化や備蓄等が課題である。	今後は、地域の自治会や関連行政機関との「非常災害時対策の具体的話し合い」を文章に明文化し、それを共有した連携・協力体制の構築と備蓄が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人に合った言葉かけを行っています。気になる言葉かけを耳にすれば、都度、指導をしています。	職員の「心得」の中に、「尊敬の意を持ち続ける」として、人生の先輩である、利用者の尊厳を損ねない対応を指導している。接遇マニュアル等を作成しての教育が課題である。	接遇マニュアルを作り、利用者の一人ひとりの誇りや、プライバシーを損ねない対人援助サービスの知識と技術を身につける取り組みが期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に寄り添い、思いがあらわせる環境をつくるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や散歩へ出かけるなど、入居者様のペースで過ごして頂けるよう努めていますが、全ての入居者様のニーズに応えきれていません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様と一緒に衣類を選び、好みに合わせるように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自助具を使用したり、食器拭きを手伝っていただくよう声掛けを行っています。	献立は、業者が栄養士の下で、シルバー献立を作り、「旬」の新鮮な食材は、調理資格を持った職員の手で、ホームの電磁式厨房で食事作りが行なわれる。検食も実施し、安心・安全を確保し、家庭的な食事風景が在る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲のない日は好きなものを提供したり、本人の嗜好に合わせて飲み物を提供したりといった工夫はしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施しています。また、一週間に一度、歯科衛生士が来所し、口腔内トラブルの早期発見に努めていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた排泄方法で援助しています。	排泄・排便記録(時系列)の中で、時系列に把握した排泄パターンを基に、個人別の排泄を把握して、トイレ誘導を促がし、自立支援を目指した排泄の支援を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトの提供や、食物繊維の多いものでの手作りおやつを工夫したりし、薬に頼らないよう努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯に対しては、夜間や早朝の提供はできていません。タイミングに関しては体調や気分に合わせて日にちの変更を行ったり、声掛けや同性介助等の支援で気分よく入っていただけるように気を付けています。	利用者の体調・希望により柔軟に対応をしている。3階浴場には、天井吊り上げ式リフトが設置され、車椅子・ADL重度者の入浴が可能である。浴場は2方向介助ができる。カーテンを取り付け、羞恥心の配慮もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝や入浴後・散歩やジムの後に休息を取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表の確認と薬の変更時は、症状に変化がないか・以前と何が変わったか等の観察を行い、カンファレンス時に話し合いを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ・編み物・習字などを取り入れたレクリエーションや、ボランティアの方によるハンドマッサージ、ゲームなどで楽しんでいただけるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日は散歩に出かけたり、桜見・菖蒲園・菊人形鑑賞など外へ出かける機会を設けるよう努めていますが、本人の希望に沿った支援とまではいっていません。	利用者の体調や健康状態を考えて、天気が良ければ、近隣に散歩、花見、菖蒲園等の鑑賞の外出支援を実施している。ただ、利用者の重度化も進み、車椅子での移動等、本人の希望に沿った外出支援が課題である。	家族・ボランティ等の積極的参加・協力を要請して、利用者の希望する、外出先、距離等を考慮した、楽しく、満足度が高まるような取り組みの支援・工夫が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人が使えるお金として、ご家族様よりお預かりしております。が、管理は職員がしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には提供をしていますが、全ての方には行っていません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるよう掲示物を変えたり、飾りを工夫するようにしています。	明るい、リビングルーム兼食堂には、季節感のある、手作りカレンダー、観葉植物、手芸品、絵画、書、行事の写真等が在り、テレビ、ソファ等も置かれて、居心地よく過ごせる共有空間が在る。ガラス越しに、テラスの野菜の栽培も観られて、心を和ませる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席を決めないと落ち着かない方以外は、その日の気分での席に座っていただいてもいいように声掛けを行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物は本人様の私物を配置し、ご家族の写真や使い慣れた筆筒等を使用されています。	居室には、馴染みの家具、テレビ、家族の写真、クローゼット、洗面所等も在り、従来の日常生活の継続性が確保されている。ナースコール、空調設備、スプリンクラー等の設置もあり、安心・安全な環境が在る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	構造上、動かすことのできないものもありますが、個々の動線を理解して環境を整えています。		